調 査 研 究 彙 報

『文化財論叢』の刊行　当研究所が文化財の調査と研究を担当する国立の機関として，1952年4月に創設され，30周年を迎えた。これを期して，1981年に在籍した研究職員62名全員が，各自1編の論考をもちより，論文集を編集・刊行した。当研究所の専門分野が多岐にわたることを反映し，文化財に関連する諸分野にわたる綜合的な論集になっている。

（発行　同朋舎．1983.3.30.価29,000円　奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集刊行会）

建 造 物 研 究 室

山根館の復原調査　秋田県由利郡仁賀保町に所在する中世城館の跡で，応仁2（1468）年から慶長7（1602）年まで仁賀保氏の居城であったと伝え，約4,000㎡の台地上に200個余の礎石をのこす。町の依頼により遺存状況の調査と，それによる復原案の作製および模型製作（縮尺1/50）について指導した。1983年3月　（細見）

中島家町の調査　明日香村大字飛鳥所在の町家の建替に伴って事前調査を実施した。19世紀初と時代は新しいが，屋敷構え全体が群として残る。主屋には染めを行うための広い下店を設け，別棟の織り屋の存在と共に紺屋としての特色をみせる。　（細見・村上・清水）

全国民家の系統的研究　既存の民家に関する調査報告書より約5,000件の農家主屋を選び，基礎資料として，データーの整理，分析を行った。平面を構成する部屋の種類，部屋の相互関係の二つの指標を設定し，それぞれについて全国の時代別分布図を作成。次に時代的変遷をいくつかのパターンに分け，そのパターンの分布図を作り，日本各地における民家発展の地域的特性の解明をめざした。　（吉田）

弘前三の丸庭園環境整備　弘前市の依頼により昨年修復した庭園滝石組の修復後の写真測量を行なった。8月　（木全・伊東・西村・本中）

山代郷正倉跡環境整備　島根県の依頼により山代郷正倉跡環境整備の基本設計の指導を行なった。12月　（村上・田中・本中）

酒井穴森遺跡環境整備　伊丹市の依頼により□酒井穴森遺跡整備の基本設計図を作成した。12月　（本中）

運上家庭園環境整備　余市町の依頼により運上家庭園滝石組部の施工指導と，調査報告書「日下ヨイチ運上家庭園環境整備事業報告書」作成指導を行なった。2月　（田中・本中）

歴 史 研 究 室

東大寺文書調査　文化庁の委嘱による東大寺文書の調査で1974年からの継続事業である。図書館所蔵の巻子本部，記録部のものの長所全部終了した。写真撮影については記録部の半分を終了した。前年度にひきつづいて東大寺文書目録第4巻を刊行した。

興福寺文書調査　従来からの調査69，70，71箱の調書の作製をおこなった。これらの箱には平安時代，鎌倉時代の聖教があって，紙背文書もふくまれている。その一端は本年報にも紹介し

た。4月，9月，2月，

薬師寺調査　東京大学史料編纂所との共同調査（第3回）第13箱以下の調査作製をおこなった。また第9箱以下の写真撮影をおこなった。

西大寺文書調査　継続調査。第83箱より第89箱まで調書作製。2月。

その他の調査　醍醐寺8月。石山寺，12月。

平城宮跡発掘調査部

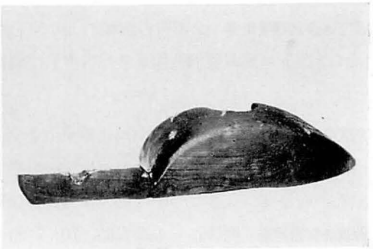
神野向（かのむかい）遺跡の調査　常陸国鹿島郡々衙推定地の継続調査で，前年明らかになった倉院の東隣約1300㎡を発掘した。地形的には正庁の存在が予測されたが，小規模な掘立柱建物・塀，竪穴住居跡などを検出したにとどまった。8月～11月。　（松村・毛利光）

丹波国分寺跡　京都府亀岡市千歳町国分所在，史跡丹波国分寺跡の整理計画に伴う確認調査であり，3ヵ年計画の初年度。塔跡西方の金堂推定地で，奈良時代の瓦積基壇の南辺と鎌倉時代の乱積基壇を発見。中門・南門については十分な手掛りが得られなかった。

（亀岡市教育委員会『丹波国分寺跡発掘調査報告書Ⅰ』1983）　（西）

史跡篠山城跡二の丸発掘調査　篠山城は慶長14年（1609）の築城で，二の丸には藩主の館があり，大書院は昭和19年まで残っていた。今後の整備計画を立案するために，1981年度から3ヵ年計画で発掘調査を行っている。前年度の大書院に続き，今年度は小書院，表御居間と台所部分約1600㎡の調査を行った。石列をともなう雨落溝や塀などが確認されているが，保存状況は余り良好ではない。とくに小書院は削平されて遺構がほとんど残らない。　（岡田・伊東）

平城宮出土の墨壺　大工道具の一つ，墨壺が兵庫県川西市栄根遺跡から発見されたことを御記憶の方も多いだろう。この墨壺の調査研究を依頼されたのを機会に，考古第一調査室では平城宮出土の用途不明木製品の洗い直し作業を行い，類品を見い出した。平城宮の墨壺は，平城宮第一次朝堂院の東を流れる幹線水路SD3715から，1977年6月に出土したもので，全体の⅔近くを欠くがもとの姿はほぼ復原できる。ヒノキの心持材を刳ったいわゆる舟形・割尻形で，上面を円弧状に作る。尻部は上下とも繰形を施すが，大半を欠損するため，繰形の形状は不詳である。尻部の破面には，糸車の軸受孔の一部が残る。墨壺は最大径5.2cm程度の円形で，内壁



兵庫県栄根遺跡出土の墨壺　　平城宮跡出土の墨壺

にはノミ痕が残り，墨も付着していた。墨壺から糸口に通じる糸道は，髄の部分を錐状工具で穿孔したもので，径は 0.4～0.9cm 。墨壺と尻部の境には軽子を留めたと思う小孔がある。全長は 10.4cm，尻部の最大幅は復原値で 9.9cm。高さ 8 cm 程であろう。8 世紀。（金子）

木器の保存処理　考古第一調査室では，外部から調査研究を依頼された以下の物件を，P・E・G処理した。大阪府鬼虎川遺跡（木製農具），兵庫県姫谷遺跡（木製模造品），佐賀県下中杖遺跡（木製馬具），愛媛県久米窪田遺跡（製陶用あて具）。（工楽）

墨書土器の調査　考古第二調査室では，平城宮出土墨書土器の集成を進めるとともに，全国各地で出土している墨書土器の調査を計画している。全国的な傾向として，墨書土器は東日本に多く見受けられる。今年度は12月に坂尻遺跡（静岡県袋井市），1月に多賀城跡の資料を調査した。各地で発掘調査が進められている歴史時代の遺跡の性格を知る上で，墨書土器はかなり重要な役割を果す。また，多賀城跡のような大規模遺跡では，配置された官衙の位置，あるいは機構まで解明できるものと予測している。（森・西・千田・巽・立木・佃）

埋蔵文化財センター

慧日寺跡―徳―廟石層塔　55年度の解体の結果，現状3層から5層に復原修理することになった。旧材を活用しながら鉄骨による補強，化学的処理による整形を実施し56年度に完成した。東文研（伊藤延男，樋口清治）と共に実地指導に当った。この後写真測量が実施され，55年度と同様当所が撮影を担当し図化の指導も行なった。57年度は覆堂（宝形造三間堂）が完成した。これによって，修理前の写真測量―解体―基壇発掘調査―復原修理―修理後の写真測量―覆堂建設という石層塔修理の模範的な工程が実施されたことになった。（磐梯町教育委員会『伝徳―廟保存修理工事報告書』1983）（安原・木全・伊東・西村・内田）

森将軍塚古墳　前方部の発掘調査が実施され，調査，整備両面の指導を行なった。墳丘裾部の20数基の箱式石棺，墳頂部の石室など新事実も確認でき，また地下岩盤までの断ち割り調査によって墳丘の構造解析もできた。それらを基にして整備方針をたてた。（安原・木下）

今帰仁城跡　史跡環境整備事業に伴う城壁石垣写真測量調査の第3年次になる。今回は，正面東側の大隅と呼ばれる地区の石塁の内外両側面を対象とした。石塁外面直下は濠状の凹地がめぐり，石材を切り出しながら濠を造っていったのではと考えられる興味深い遺構が見られた。東側は志慶真川の渓谷に臨む断崖になっているので，外側の撮影は通常では不可能であるため，特別な装置を開発する必要がある。（木全・伊東・西村・松本）

松本城二の丸跡　昨年度までの発掘調査結果に基づき，整備基本計画作製の全面的指導を行なった。検出遺構が古図によく合致することもあって，部屋割に加えて畳敷・板敷・土間の別も表現するユニークな計画が立案できた。この方法は室蘭市の元室蘭南部藩陣屋跡以来2番目の例となる。引き続いて実施設計に対しても指導を行なった。（安原・宮木・内田）